令和 4 年度　斜面樹林化技術協会現地見学会・技術研修会の開催報告

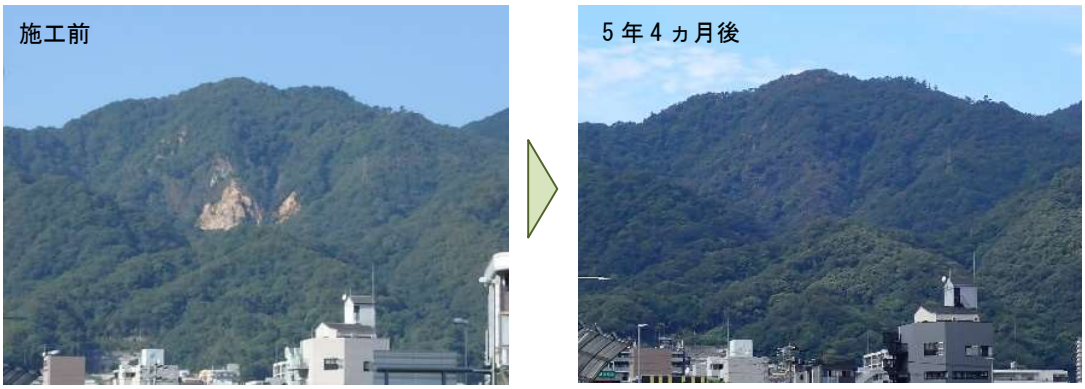
斜面樹林化技術協会 技術委員会

令和 4 年 10 月 7 日（金）に，斜面樹林化技術協会の現地見学会・技術研修会が兵庫県の神戸布引ハーブ園で開催され，協会員 15 名が参加しました。

今回の見学場所は，兵庫県南部地震で生じた山腹崩壊地の防災対策工事（苧川谷）で，2016 年～2017 年に先駆樹種と遷移中後期樹種が混生する木本植物群落の形成を緑化目標とした斜面樹林化工法が採用された現場で，施工 5 年 7 ヵ月が経過した現在では神戸市街地から眺望しても施工箇所がわからないまでに自然回復が進んでいます（写真参照）。

技術研修会では，1）工事概要説明（斜面樹林化工法が採用された経緯と施工状況），2）施工 4 年 7 ヵ月後に群落高 250 cm の木本植物群落が形成されるまでの植生推移，3）施工後 19～31 年が経過した斜面樹林化工法の施工事例（10 事例）の追跡調査結果を紹介し，参加者の方々に播種工で在来の木本植物群落を形成させる手法は，グリーンインフラとして中長期的に法面防災と自然回復を両立できる技術であることを再認識していただきました。

今回はあいにく雨天で，予定していた 5 年 7 ヵ月後の法面状況の見学はできませんでしたが，事前に撮影した写真やドローン動画等で植生状況をご覧いただき，充実した研修会となりました。



神戸市街地から見た苧川谷法面



技術研修会



参加者一同（ハーブ園会議室）